

平成28年度 学校評価 年度末評価

<p>本年度の重点目標</p>	<p>1 生徒一人一人の実態を把握し、実態に即した分かりやすい授業のための指導方法の工夫と改善 2 生徒の自己認識を深めるための支援の充実 3 委員会活動、生徒会活動、舎生会活動等を通した生徒の主体的な活動の促進 4 教科会の充実とともに、現職研修、職業種目研修、授業研修の積極的な実施 5 生徒の健康・安全に関する意識や社会的規範意識の向上、実践的な安全教育の推進 6 交流及び共同学習を始めとする校外における体験活動の充実</p>			
<p>担当</p>	<p>重点目標</p>	<p>具体的方策</p>	<p>*</p>	<p>評価結果と課題（文末のカッコ付数字は、主な評価項目）</p>
<p>総務部</p>	<p>・表彰の手順、展示、保管の仕方を考え生徒の励みとなるようにする。 ・PTA 活動における保護者と職員の協力体制を深める。</p>	<p>・部活動の大会等の受賞を讃え、表彰、展示の仕方、保管の仕方を検討し、賞状等を整理する。 ・PTA 役員の意見を取り入れ PTA 行事等の計画を立て、打ち合わせをししっかり行き連携した PTA 活動に取り組む。</p>	<p>B A</p>	<p>・部活動等での表彰、展示の仕方について総務部で検討し、提案することができた。部活動の顧問と連絡を取り合い、受賞後速やかに展示、披露できるようにしたい。また、過去の賞状、楯等の整理が十分でないため、年度末に整理し、保管方法（保管場所、保管期間等）を決めて、来年度に引き継ぐ。(2)(3) ・昨年に続き、90名程の保護者が協力委員等で協力してくださった。役員と担当職員間では、早めに連絡を取り合い準備ができた。今後も反省点、改善策等早めに情報提供し、役員間の引き継ぎがスムーズにいくよう努めたい。(3)</p>
<p>教務部</p>	<p>・分かりやすい授業の指導方法を検討する。 ・教育活動における保護者と教員の協力体制を深める。</p>	<p>・「より生徒の力が育つ」を念頭においた教育課程の編成ができるように教育課程の振り返りを行う。 ・学年主任や校務主任と連絡や調整を図り、保護者の授業参観や学年全体会への参加を呼びかけるなど、連携して取り組む。</p>	<p>B A</p>	<p>・教育課程を考えていく中で、流通・サービス分野の清掃の学習について、校外の実習に出かける前の1年生を対象とし、職業種目の時間に取り組むことができた。また、「より生徒の力が育つ」ように教育課程の編成や授業時間など、引き続き考えていきたい。(1)(4) ・授業参観等の出欠席表を保護者が年間の見通しをもちやすいものに変更した。保護者案内にも学年全体会の参加の必要性など呼びかけの言葉を入れた。多くの保護者が来校し授業や行事を見ていただくことができた。更に来年度は入学前の保護者から授業参観の参加を働きかけていきたい。(3)</p>
<p>教育支援部</p>	<p>・時代と実態に即した分かりやすい授業を検討する。 ・効果的な指導ができるように、情報機器の環境整備や情報提供をするなどし、使用しやすくする。</p>	<p>・校内研究の取組で職業生活、道徳の年間指導計画や教材の見直し、作成ができるようにする。 ・校内の情報機器やパソコンの環境を整える。 ・本校が所有する情報機器を紹介する。 ・情報機器の使用例をまとめ、使用方法を紹介する。</p>	<p>A A</p>	<p>・各教科主任（道徳、職業種目）や学年等と連携をとり、指導が不十分な内容等を年間指導計画に取り入れ、教材等の見直しや作成を行うことができた。次年度、実践や検証をし、本校に適した計画を作成していきたい。(1) ・情報機器の定期的な点検で、異常や紛失等に早めに気付き対応することができたが、貸出表の未記入があるので周知したい。(1) ・夏休みにサーバ等のデータ検索をし、個別の管理調整をお願いし、データを削減することができた。(1) ・情報機器の紹介やタブレット端末の研修により、情報機器の使用頻度が上がるなど生徒に分かりやすい授業を行うことができたようになった。タブレット端末の適当なアプリのインストールや保存、印刷等が今後の課題である。(1)(4)</p>
<p>生徒指導部</p>	<p>・訓練や研修を通し、防災意識の向上を図る。 ・道徳教育を通し、生命に対する畏敬の念と人間尊重の精神を培う。 ・交流などの体験活動を通して豊かな人間性を育む。</p>	<p>・避難訓練や朝会等で防災グッズの場所や使用方法などを伝達し、防災意識の向上を図る。 ・年間指導計画を見直し、補助教材を作成する。 ・アンケートを通し情報入手し、問題の早期発見や対策を行う。 ・体験したことや反省点を発表する場の設定、資料を作成し、その他の生徒に情報発信する。</p>	<p>A B B</p>	<p>・避難訓練の工夫（2カ所集合や緊急地震速報の活用）により新たな課題が見つかった。現職研修では防災の現状を周知し、課題を共有した。今後もマニュアルの再確認や見直し等、短い時間で効率良く周知できるような活動を考えていきたい。(1)(4)(5) ・各学年年間指導計画を見直し、時期に適した内容に変更した。今後、共通した授業展開ができるような資料を作成する。(1) ・アンケートにより、生徒の困り感の把握や未然にトラブルを防止することができた。また、指導に入るタイミングを図ることができ、効率良く支援することもできた。(2)(3)(5) ・交流した内容を掲示物で報告することにより、生徒間の情報交換となった。本校では体験できないことや高等学校生との交流により、新しい発見や経験を通し、今後の活動に幅ができることを期待している。(2)(6)</p>

担当	重点目標	具体的方策	*	評価結果と課題
保健 体育部	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の心身の健康の状態を把握し、各機関と連携しながら相談活動(カウンセリング)を充実する。 生徒、教職員の健康・安全に関する意識の向上と安全教育の推進を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の健康状態や生活面についての状況を把握し、担任、学年職員に連絡を行い、必要場合は関係機関の知見を活用する。 「ヒヤリハット」の取組や校内の危険な場所に注意を啓発する表示を充実させる。 校内の危険な場所などを早急に調査、改善し、生徒、教職員の安全意識を高める。 	A A	<ul style="list-style-type: none"> 毎日、生徒の健康状態を把握することができた。生徒が相談しやすい環境を保健室に作ることで、生徒が来室した際は、養護教諭が話を聞き、<u>学年主任、担任へ報告し対応することができている</u>。また、<u>生徒一人一人の実態を把握し</u>生徒の健康や生活について、学校医より指導をしていただいた。(2) 「ヒヤリハット」の用紙を全職員に配布した。出された意見は、<u>改善して朝礼や部会等で報告することができた</u>。もう少し定期的に情報を伝えるようにしていきたい。また、保健委員会の生徒と一緒に、注意喚起のポスターを校内に掲示したり、階段での衝突防止のため分かりやすく矢印を貼り付けたりすることができた。<u>生徒、教職員の安全意識を高めることができた</u>と感じた。安全に関する情報については、できるだけ早めに、<u>生徒、職員に知らせることができた</u>と感じる。今後は、自主的に校内の巡視を行い、早く危険箇所を周知できるようにしたい。(3)(5)
進路 指導部	<ul style="list-style-type: none"> 生徒一人一人の実態を把握し、生徒の実態に即した進路指導を進める。 進路に関する意識の向上を図り、適切な進路指導を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校生活全般を通して生徒の「社会で活躍できる力」を把握する。 今現在の本人、保護者の願いを聞くだけでなく、卒業生の事例等を踏まえ、将来を見据えた進路指導を行う。 事業所参観、人事との話、実習等を通して得た情報に、本校としての捉えを加えて、進路から情報を職員に発信する。 	A A	<ul style="list-style-type: none"> 3年生の進路先については、学年と協力して生徒の<u>実態に即して進路指導を進め</u>、その結果、<u>産業現場等における実習では、全員が合格することができた</u>。進路先についても、一般就労のみではなく、柔軟に就労移行、A型事業所も検討し、<u>将来を見据えた進路指導を展開</u>できた。(1)(2) 進路に関する<u>意識の向上</u>という点では、学年会、校務部会、部会等の会議の場での<u>情報伝達</u>と、学年主任、担任等との個々での<u>情報交換</u>に取り組んだ。最近では、<u>卒業生の相談</u>が増えてきており、そこから見えてくる本校が取り組むべき課題もある。今後は、その課題について<u>共通認識</u>し、本校の<u>現状と課題、教育活動の方向、具体的な取組</u>について関係部署とも連携し、一緒に考えていきたい。(1)(2)(4)
寮務部	<ul style="list-style-type: none"> 部屋別校外活動の充実を図る。 舎生一人一人の実態を把握し、本人の自己認識や自己理解を深める。 	<ul style="list-style-type: none"> 活動内容の紹介を工夫し、舎生に活動のイメージがもてるようにする。 ケース会以外にも気になる舎生についての話し合いを適宜行い、実態把握や支援方法について共通理解を図る。 担任や学年主任、生徒指導主事とも生徒情報を共有し、連携を図る。 	A B	<ul style="list-style-type: none"> 部屋別校外活動の実施に向けて、各舎室で<u>舎生が主体となって計画を立てた</u>。多くの舎生が活動を楽しむことができ、<u>来年度の期待感も高まっている</u>。(3) 来年度は更なる校外活動の充実に向け、<u>目的別の校外活動の実施</u>を考えている。複数の舎室が一緒に出掛けるため、引率者の数を確保でき、安全面で配慮することができる。その一方で、舎生の親睦を深めるという点では、事前の学習等での工夫が必要である。(3)(5) 夏季休業中に<u>ケース会</u>を開き、気になる舎生の実態把握、課題と支援方法について<u>共通理解</u>を図った。ケース会で挙げた支援方法や手立てについて、<u>実践・検証・改善</u>を繰り返すことで、成果が見られている。これらの情報を担任や学年主任、生徒指導主事と共有し、更なる連携を図っていきたい。(2)
学校関係者評価を実施する 主な評価項目		<ol style="list-style-type: none"> 生徒の実態に即した分かりやすい授業内容、指導方法、評価について 生徒本人の自己理解と自己実現に向けての自己認識を深める支援の充実について 委員会活動、生徒会活動、舎生会活動等を通じた主体的な活動の促進について 教科会、現職研修、職業種目研修の充実について 生徒の安全意識、社会的規範意識を高めるための教育活動の推進について 交流及び共同学習等の校外における体験活動の充実について 		

*評価基準 A：計画どおり進んでいる。 B：ほぼ計画どおり進んでいる。
 C：あまり計画どおり進んでいない。 D：計画どおり進んでいない。